

# 2026年度第1回町田市子ども・子育て会議

## 議事要旨

---

### 【開催概要】

日時：2026年5月21日（木）18：00～19：59

会場：市庁舎 会議室3-2・3-3

### 【議事次第】

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 町田市子ども・子育て会議委員委嘱
- 4 町田市子ども・子育て会議委員紹介
- 5 事務連絡
- 6 調査審議の依頼（諮問）
- 7 担当課紹介
- 8 事務連絡
- 9 議題
  - （1）「（仮称）町田市子ども発達支援計画行動計画2027～2029（第4期障害児福祉計画）」の策定について（資料1～5）
  - （2）第3期町田市子ども・子育て支援事業計画の変更について（資料6、7）
- 10 報告
  - （1）2026年4月認可保育所等入所待機児童数について（資料8）
  - （2）未就園児預かり推進事業の実施結果について（資料9）
  - （3）2026年4月の学童保育クラブ入会状況について（資料10）
  - （4）保育所等施設整備に係る「2025年度整備実績」について（資料11）
  - （5）2026年度町田市子ども・子育て会議 年間スケジュールについて（資料12）
- 11 その他
- 12 閉会

【配布資料】

- 資料 1           （仮称）町田市子ども発達支援計画行動計画 2027～2029 の  
策定について
- 資料 2           町田市子ども発達支援計画行動計画 2027～2029  
コンセプトペーパー
- 資料 3           町田市子ども発達支援計画行動計画 2027～2029（第四期）  
策定にかかる調査 調査の概要
- 資料 4－1       保護者調査票
- 資料 4－2       町田市 こどもアンケート
- 資料 4－3       関係機関調査票
- 資料 4－4       事業所調査票（管理者・従事者共通）
- 資料 5           策定スケジュール
- 資料 6           第 3 期町田市子ども・子育て支援事業計画の見直しについて
- 資料 7－1       保育提供体制の確保のための実施計画について
- 資料 7－2       保育提供体制の確保のための実施計画
- 資料 8           2026 年 4 月認可保育所等入所待機児童数について
- 資料 9           未就園児預かり推進事業の実施結果について
- 資料 10          2026 年 4 月の学童保育クラブ入会状況について
- 資料 11          保育所等施設整備に係る「2025 年度整備実績」について
- 資料 12          2026 年度町田市子ども・子育て会議 年間スケジュール

２０２６年度第１回町田市子ども・子育て会議 委員出席者

子ども・子育て会議 委員

| 氏 名     | 所 属               | 出 欠 |
|---------|-------------------|-----|
| ◎鈴木 美枝子 | 玉川大学              | 出   |
| ○菅野 幸恵  | 青山学院大学            | 出   |
| 下尾 直子   | 洗足こども短期大学         | 欠   |
| 矢口 政仁   | 町田市私立幼稚園協会        | 出   |
| 関野 鎮雄   | 町田市法人立保育園協会       | 出   |
| 北澤 英明   | 町田市社会福祉協議会        | 欠   |
| 畠中 勝美   | 町田市立小学校校長会        | 出   |
| 鈴木 和宏   | 町田市立中学校校長会        | 出   |
| 旭岡 善介   | 東京都立町田の丘学園        | 出   |
| 小出 伸子   | 町田市民生委員児童委員協議会    | 出   |
| 村野 明子   | 町田市医師会            | 出   |
| 松井 大輔   | 町田商工会議所           | 欠   |
| 平林 拓    | 市民                | 出   |
| 高城 容子   | 市民                | 出   |
| 中瀬 美帆   | 町田市立中学校ＰＴＡ連合会     | 出   |
| 近藤 弘晃   | 町田市青少年委員の会        | 出   |
| 酒井 恵子   | 町田市障がい児・者を守る会すみれ会 | 出   |

◎会長 ○副会長

備考：傍聴者（３名）

2026年度第1回町田市子ども・子育て会議 担当課出席者

| 氏 名    | 所 属                     |
|--------|-------------------------|
| 佐藤 智恵  | 子ども生活部部長                |
| 香月 勇人  | 子ども生活部子ども総務課長           |
| 島崎 翔   | 子ども生活部児童青少年課長           |
| 河手 貴史  | 子ども生活部保育・幼稚園課長          |
| 田中 茂明  | 子ども生活部子育て推進課長           |
| 山形 悠介  | 子ども生活部子ども家庭支援課長         |
| 遠藤 聡人  | 子ども生活部子ども発達支援課長         |
| 中村 哲也  | 子ども生活部子ども発達支援課相談・療育担当課長 |
| 礒部 るりこ | 保健所保健予防課母子保健担当課長        |
| 杉浦 元一  | 学校教育部指導室長               |

事務局：子ども総務課 深井 健央、小林 まりえ、土居 圭代

## 【議事内容】

### 1 開会

子ども総務課企画総務係担当係長：ただいまから、2026年度 第1回 町田市子ども・子育て会議を開会いたします。私は、子ども総務課企画総務係担当係長の深井と申します。議題に入る前まで、司会進行を務めさせていただきます。議事に入る前に、会議の欠席のご連絡をお伝えいたします。本日は下尾委員、北澤委員、松井委員が欠席との連絡が入っております。本日は半数以上の委員の出席をいただいておりますので、会議は有効に成立しております。本日の会議の進行ですが、2時間程度を目安に進行していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。また、議事要旨作成のため、会議の内容を録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。会議の公開等についてですが、特にご意見が無いようでしたら、公開することよろしいでしょうか

一同：（異議なし）

子ども総務課企画総務係担当係長：それでは会議は公開とさせていただきます。

今回は2026年度初めての会議のため、稲垣市長にお越しいただいております。まずは、稲垣市長からご挨拶をしていただきます。よろしくお願いいたします。

### 2 市長あいさつ

稲垣市長：市長の稲垣でございます。委員の皆様には、日頃から町田市政や地域における子育て支援に対し、多大なご尽力とご理解を賜り、誠にありがとうございます。私は市長就任以来「市民の声をよく聞く」ということを重点的にお伝えしており、こうして皆様が地域の子育てに関して一緒に考えてくださることを大変嬉しく思っております。

この場をお借りして、町田市の子ども行政についてお話をさせていただきます。1つ目は、年少人口の転入超過数についてです。2025年の人口統計において、本市の0歳から14歳の転入超過数は1,171名にのぼり、2位と大きく差をつけて全国1位になりました。要因の一つには、東京都による第1子保育料無償化なども考えられますが、これまでの石阪市政から継続してきた子育て支

援をご評価いただいた結果と考えております。一方で、想定を上回る急激な年少人口の増加により、待機児童の増加などの課題も生じております。こうした状況を改善していくため、皆様のお知恵をお借りしたいと考えております。

2つ目は、未就園児預かり推進事業、いわゆる「こども誰でも通園制度」の拡充です。昨年までは市内の8園で実施しておりましたが、国の制度の本格実施に合わせ、2026年度からは実施園を11園に増やし、より利用しやすく、きめ細やかなサービスを提供できるようになります。

3つ目は、市内各地で展開している「子どもクラブ」についてです。市内を5地区に分け、各地区に1つの子どもセンターと2つの子どもクラブを配置し、放課後の居場所づくりを重点的に進めております。今年3月には成瀬地区に「なるるん」がオープンし、残る金井・薬師地区でも2年後に子どもクラブが完成予定です。これにより、全地域に居場所が行き渡るようになります。

4つ目は、「小1の壁」対策についてです。共働きのご家庭から「保育園の時は早い時間から預かってもらえたが、小学校は8時にならないと登校できず、朝の居場所がない」という声をいただき、今年5月から市内の全公立小学校で朝7時半からの見守り員を配置しました。私自身も今朝、忠生小学校へ足を運びましたが、体育館に約20名のお子さんが集まっており、市全体で朝の居場所づくりが進んでいることを実感いたしました。

5つ目は、「まちだ若者大作戦」についてです。本事業は、子どもや若者の自由な発想によるイベントや事業を市がサポートすることで、子どもたちが様々なことに挑戦し、同世代のつながりはもちろん、大人とのコミュニケーションや成功体験を通じて、地域への愛着を育むことにつながります。当初は今年3月で終了予定でしたが、好評につき期間を延長して実施しております。

さて、今年度は「町田市子ども発達支援計画行動計画2024～2026」の最終年度にあたるため、次年度から始まる新たな行動計画についてご検討いただくことになります。この計画は、障がいのあるお子さんはもちろん、すべてのお子さんが健やかに育つために欠かせない、大変重要なものです。皆様から活発なご意見をいただき、より充実した計画が策定できることを期待しております。

### 3 町田市子ども・子育て会議委員委嘱

子ども総務課企画総務係担当係長：ありがとうございます。それでは、委員委嘱に移りたいと思います。代表で第6期会長の鈴木委員、お受け取りいただけますでしょうか。

〔委嘱書手渡し〕

子ども総務課企画総務係担当係長：鈴木委員、ありがとうございます。委員の皆様  
の委嘱書は、お席に置かせていただいておりますので、ご確認ください。第7  
期委員の任期は、2026年4月1日から2028年3月31日までとなります。

### 4 町田市子ども・子育て会議委員紹介

〔委員紹介〕

### 5 会長・副会長の選出

子ども総務課企画総務係担当係長：次に、会長の選出を行いたいと思います。町田市  
子ども・子育て会議条例第7条では、「会議に会長を置き、委員の互選により定  
める」こととなっております。どなたか適任と思われる方をご推薦いただけま  
すでしょうか。

村野委員：第6期の会長を務めていただき、引き続きご参加いただいている鈴木委員  
に会長をお願いするのはいかがでしょうか。

子ども総務課企画総務係担当係長：ありがとうございます。鈴木委員というご意見を  
いただきましたが、いかがでしょうか。

一同：（異議なし）

子ども総務課企画総務係担当係長：ありがとうございます。ご了承いただきましたの  
で、会長は鈴木委員にお願いします。

それでは、副会長の選出になりますが、条例では「会長があらかじめ指名する  
委員」ととなっておりますので、会長から指名をお願いいたします。

鈴木会長：それでは私から指名させていただきたいと思います。副会長は菅野委員に  
お願いいたします。

子ども総務課企画総務係担当係長：それでは菅野委員に副会長をお願いいたします。

それでは会長及び副会長から一言いただければと思います。まずは鈴木会長、  
よろしくお願いいたします。

鈴木会長：玉川大学の鈴木美枝子と申します。今期も会長を務めさせていただくこと  
となりました。どうぞよろしくお願いいたします。

現在、国の「こども未来戦略」により支援が加速しており、先ほど市長からお話  
がありましたとおり、町田市でも子どもが増えていることは非常に喜ばしい限  
りです。一方で、対応が追いつかない部分も懸念されるため、本会議では、新任  
の委員の方々も含め、皆様から忌憚のないご意見を伺い、市政に活かしていただ  
きたいと考えております。

先日登壇した日本保育学会のシンポジウムでは、多様な分野の研究者や専門家  
が一つのグループで議論する大切さを改めて実感しました。本会議においても、  
様々な職種の方々にお集まりいただいているため、皆様の立場ならではの視点  
で、子どもをまんやかに活発な議論を展開していただければ幸いです。

菅野副会長：副会長にご指名いただきました菅野と申します。不安定な世界情勢が続  
く中、そのしわ寄せは、子どもたちを含む弱い立場の方々に及ぶと思います。  
そのような状況をふまえ町田市が掲げる「子どもにやさしいまち」を真に実現  
できるよう、皆様と力を合わせて取り組んでいきたいと考えております。第6  
期は公募委員の方から多数のご発言をいただいたため、新しく公募委員になら  
れたお二人からも、ぜひ色々なご意見をいただきたいです。

鈴木会長を支えながら、皆様と共に、より良い子どものためのまちづくりに尽力  
してまいります。よろしくお願いいたします。

## 6 調査審議の依頼（諮問）

〔市長から鈴木会長へ諮問〕

## 7 担当課紹介

〔担当課紹介〕

## 8 事務連絡

子ども総務課企画総務係担当係長：議題に入る前に、事務局から会議の運営について

お伝えいたします。

発言する際には、まず挙手をしていただき、会長に指名されてから発言をお願いいたします。議事要旨作成のため、発言の前には、所属は結構ですので、ご自身のお名前を述べていただいてから、発言をお願いいたします。

本会議は、子ども・子育て支援に関する事項について、ご審議いただく場となります。皆様から建設的なご意見をいただくことで有意義な議論ができるよう、ご協力をお願いいたします。

続きまして、本日配布している資料の確認をいたします。お手元の資料をご覧ください。

## ■資料の確認

〔資料１～１２の確認〕

子ども総務課企画総務係担当係長：ここからの進行につきましては、鈴木会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

## ９ 議題

### （１）「（仮称）町田市子ども発達支援計画行動計画２０２７～２０２９（第四期障害児福祉計画）」の策定について

鈴木会長：まずは議題１の、「（仮称）町田市子ども発達支援計画行動計画２０２７～２０２９（第四期障害児福祉計画）」について、事務局から説明をお願いします。

〔資料１～５の説明〕

平林委員：資料２について、子どもから直接声を聴くことは、非常に素晴らしい取組だと感じました。

質問が１点ございます。調査結果のコラム掲載や高校生ボランティアによる発信に焦点を当てていますが、発信された情報を周囲が理解し、手助けにつなげていく仕組みが必要ではないでしょうか。これに対し、市としての具体的な打ち手があればお伺いしたいです。

子ども発達支援課長：現時点で、どのような声が出てくるかわからないので、こうすればいいという打ち手はなかなかない状況です。ただ、いろいろな場面で、ま

ずはお子さんの状態や、いろいろな障がいをお持ちの方の状態を知っていただくこと、どうすれば皆さんが過ごしやすいかを知っていただくことを起点に、少しずつ改善策を考えていきたいと思います。計画期間の３年間ですべてを実現できるとは思っておりません。まずは聞くところから始め、そこから皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

村野委員：資料４－２の子どもへのアンケートについて、２ページの「③学校でのこと」の具体的な困りごとの選択肢で「授業でみんなとおなじようにできないことがある」という設問について、一部に学習障害（限局性学習症）のあるお子さんが含まれると思いますが、そういった中には、文字を読むことが苦手、文字を書くことが苦手、計算が苦手など、困りごとの内容が異なる場合があります。そしてそれを保護者の方が気付かないまま経過しているケースも少なくありません。そのため、「字を読むことが苦手」「字を書くことが苦手」「計算が苦手」など、具体的な内容を設問例として示していただくと良いと思いました。

子ども発達支援課長：調査会社と、どのような工夫をしたら分かりやすいか考えながら進めていきます。

酒井委員：資料３の保護者アンケートの対象者について、Ｂ層の医療的ケア児の保護者は全数となっていますが、Ａ層の保護者は全員ではなく、障害者手帳を持っている方、受給者証を持っている方、子ども発達センターを利用されている方の保護者の中から抽出する形になるのでしょうか。

子ども発達支援課長：現時点で対象者の全体像が把握しきれいていませんが、どの程度発送できるか調査会社とも調整し、極力全数に近い規模で実施したいと考えています。

高城委員：高校生ボランティアの発展的活用について、『「行政への要望」ではなく「社会への気づきの提供」として発信する』との考えが示されましたが、具体的な発信方法について、考えがあれば伺いたいです。

子ども発達支援課長：具体的な事業として検討を進めている段階ではありませんが、年１回の市民向け講演会やイベント時のブース出展といった機会の活用を模索しています。こうした場での展開について、高校生の柔軟なアイデアを取り入れたいと考えており、今後は高校生との意見交換を通じて検討していきたいと思っております。

鈴木会長：玉川大学の乳幼児発達学科でInstagramを始めたところ、高校生などを引き付けるようなものを学生たちが作ってくれ、発信力の高さを感じています。それに通ずるものがあると思うので、是非若い世代の声を汲み取って活かしていただきたいと思います。

ここで、本日欠席の下尾委員から事前にお預かりしたご意見について、ご報告します。

- ・資料2の4ページ、高校生ボランティアの新しい関わり方について、大変素晴らしい取組だと思います。大人が過度に関与しすぎることなく、生徒主体の活動として成功することを期待しています。
- ・資料4-1の3ページ、【場面3】学童・習い事・地域活動に関する質問について、回答者が具体的にどの活動に対して不安を感じているのか聞いた方が良いでしょう。また、問7において「情報が少なく」の情報とは、お出かけ先の概要等ではなく、合理的配慮に関する情報でしょうか。
- ・資料4-2の3～5ページ、「こんなことをしてみたい」を尋ねる方針がアンケートの核になっていると思いますが、子どもが質問の意図を正確に理解できるよう配慮が必要だと考えます。未経験の新しいことを期待しているのか、それとも周囲はできているが、自分は参加できずにいることを聞き出したいのでしょうか。具体例を提示するか、設問文を再検討する必要があると考えます。
- ・資料4-3の3ページ、問12において「インクルーシブな環境」「障がいのある子とない子が共に参加できる活動」「ユニバーサルデザインの観点」と表現が使い分けられていますが、意図や背景はありますか。

子ども発達支援課長：本日いただいた意見を参考に、内容を充実させていきたいと思っています。資料4-3の問12に関しては明確に書き分けている意図はなく、精査して分かりやすいようにしたいと思っています。

酒井委員：資料4-1の問15で、18歳以降の意向に関する不安について、「医療的ケアを継続できるか不安」とありますが、「医療的ケア」という言葉は、重度なケアを必要とするイメージが強いです。実際には、ADHD等の薬の処方や定期通院が必要な知的障がい・自閉症のあるお子さんも、18歳以降に小児科から成人診療科へ移行する際の受け皿が見つからないことに強い不安を感じてい

ます。町田市内には大人の障がい特性に対応できる病院が少なく、市外へ通わざるを得ないケースが多く、将来の通院先に悩んでいるのが実態です。「医療的ケア」という限定的な言葉ではなく、「通院先」といった全般的な表現に変更することで、障がいのあるお子さんを持つ保護者全般がより回答しやすくなると思います。

鈴木会長：18歳以降の医療がどうなるのか、国が示す「切れ目のない支援」の考え方もふまえて、そういった点を聞ける文言があると良いと思います。

平林委員：資料3の3ページ、「子ども向け調査の対象拡大」における目標回収数

250件について、設定された目標数の具体的な背景はありますか。調査の利便性が向上し、対象範囲も拡大しているとの説明を踏まえると、回収率の維持や向上が期待できるのではないかと考えますが、資料では前回よりも下回っています。例えばアンケート調査対象者への働きかけなど、委員側で協力できることがあればと思いますが、いかがでしょうか。

子ども発達支援課長：目標回収数については、質問の意図を理解することが難しいお子さんもうらっしゃることを考慮し、確実に子どもの声を聞き取れる現実的なラインとして設定したものです。本来は全員に回答いただきたいと考えておりますが、高い目標を掲げても、現状ではそれを達成するための具体的な手立てが不足しております。そのため、まずはこの数値を達成することを一つの目安とした見込みであるのご理解いただけますと幸いです。

鈴木会長：回答期間が回収率に大きく関わってくるので、少しでも早くアンケートを発送できると回答期間が長くなると思います。

子ども発達支援課長：現状は回答期間を3週間程度と考えておりますが、少しでも長く期間が確保できるよう、努力したいと思います。

関野委員：調査の対象年齢を小学4年生に引き下げたことに伴い、担当課から「回答が難しいのではないか」という懸念が示されましたが、対象を広げた意義を活かすためにも、回答しやすい設問への改善や収集方法の工夫など、お子さんたちの声がより多く集まる努力や工夫を重ねていただきたいです。

子ども発達支援課長：ひらがなを多く使い、絵で答えられるようにするなど、できる限り回答しやすいような工夫は今後も考えていきたいと思っております。

菅野副会長：子どもの声を聴くというコンセプトは非常に素晴らしく、当事者である

子どもたちの意見がしっかりと反映される調査になることを期待しています。現在の設問案は全体的に「困りごと」の聴取に偏っており、何かができていることを前提としているような印象を受けますが、実際には楽しいことや今できていることもたくさんあるはずです。楽しいということもやりたいこと等につながると思うので、設問をスリムに絞り込むこととの調整は難しいかと思いますが、そこも考えていただきたいと思います。

子ども発達支援課長：参考にさせていただきながら、調査会社の意見も聞いて、どの程度のボリューム感であれば答えやすいのか考えながら精査したいと思います。

鈴木会長：子ども向けのアンケートが記述式中心となっているのが気になっており、子どもにとっては選択肢があった方が答えやすいのではないかと思います。選択肢作り自体が大変な作業かと思いますが、子どもに確認したうえで選択肢が作成できると良いと思います。記述であっても、例えば「どこにいたときに楽しいですか」「何をしているときに楽しいですか」といった楽しいと感じている居場所や楽しいと感じていることなどを書きやすいように工夫してほしいです。

子ども発達支援課長：大人が想定する回答と、実際の子どもの気持ちは異なると考え、あえて記述式にしておりましたが、子どもにとって回答しやすい形式を考えたいと思います。

鈴木会長：本日出たご意見なども踏まえて作成していただけたらと思います。今日伝えられなかったことを後日お伝えする機会はあるのでしょうか。

子ども発達支援課長：2週間の間にご連絡いただければ、アンケート案の修正について検討させていただきます。

## **（２）第３期町田市子ども・子育て支援事業計画の変更について**

鈴木会長：続きまして、議題２「第３期町田市子ども・子育て支援事業計画の変更について」に入る前に、計画変更の前提となる町田市の保育所等の待機児童の状況をご報告いただきたいと思います。次第と前後しますが、報告１の「２０２６年４月認可保育所等入所待機児童数について」担当課から説明をお願いいたします。

### **〔報告事項（１）の説明〕**

鈴木会長：ただいまの報告に対する質疑は、議題２の説明が終わった後にまとめて時

間を取ります。続いて、担当課から「第3期町田市子ども・子育て支援事業計画の変更について」説明をお願いします。

〔資料6・7の説明〕

矢口委員：資料7-2の1ページでは、今年度の利用申込者数が9,614人となっていますが、資料8の3ページでは申込者数が9,961人となっています。この数値が合わないのはなぜでしょうか。どちらの数値をもとに見直すのでしょうか。

子育て推進課長：資料7-2と資料8では、企業主導型保育事業などを含むかどうかなど、数字の積算の考え方が異なっています。資料7-2は国の方針に基づく積算方法となっており、町田市の考え方にに基づく積算方法とは異なるため、数値に差異がありますが、子ども・子育て支援事業計画は資料8の数字を元に見直しています。

矢口委員：資料7-2の1ページでは、今年度に735人の0歳児が保育を必要としていたものの、資料6の5ページの見直し後の表では、2027年度の0歳児のニーズ量が609人となっています。なぜ、約130人も低くする必要があるのでしょうか。

子育て推進課長：資料7-2では、国の方針に基づき、実際の申込者数の総数を記載しています。しかし、市では待機児童数を解消することを主目的に施設整備を行うため、子ども・子育て支援事業計画における保育ニーズの出し方は、申込者数ではなく、実際の入所児童数や待機児童数などを基にカウントしています。そのため、資料6と資料7-2では数値に差異が生じています。

矢口委員：保育所を必要としている人はたくさんおり、その結果として今年度の待機児童数が90人、保留児童数が794人となっています。0～4歳の転入超過数は2位の自治体の2倍以上の741人で、町田市が多くの人に選ばれている状況ですが、一方で、ニーズ量の見込みは低いと感じます。見直しの結果、2029年には足りる見込みでも、2029年までに保育を必要としている保護者たちはどうなりますか。

子育て推進課長：保育の受け皿の確保については、施設を整備するだけでなく、ソフト面で余裕施設活用型1歳児受入事業なども活用しています。これらは制度上、計画の数字には反映されませんが、こうした事業により少しでも保育を必要と

されている方の受け皿を確保したいと考えております。

矢口委員：余裕施設活用型の緊急実施は現在も行っていますが、来年に向けて拡充するということでしょうか。現在足りていないのは0～2歳ですが、0～2歳に限った場合の充足率はどのくらいになりますか。充足率が100だとすると、現場は余裕がありません。それでも、施設の余裕部分を使って来年確保ができるのでしょうか。また、具体的にどのくらいの数を確認できるのでしょうか。

子育て推進課長：0～2歳の充足率に関する資料が手元になく、現時点で回答できないことをお詫び申し上げます。来年4月に向けた具体的な定員確保の見通しについては、スピード感を持ちつつ、丁寧かつ慎重に検討を重ねているところです。現在、複数の案を検討しておりますが、確定には至っていないため、決まり次第ご案内いたします。また、既存施設のキャパシティを最大限に活用するための工夫も含め、市として検討を進めております。

矢口委員：この資料を見る限り、保育の受け皿確保に向けて市が十分に取り組んでいるとは思えません。現在、整備を計画している小規模保育所では待機児童数を解消しきれず、子育て世帯の人たちが見たときに、不安をあおる結果になると思います。子ども・子育て会議は、こうした計画を立てるために審議する場ですが、委員としては、この見直しには賛同できません。

子育て推進課長：保育ニーズに対して不足が生じている事実は十分に承知しており、この状況を重く受け止めております。一方で、一度施設を整備すれば、その後10年、20年と継続して運用していくことを見据えなければなりません。現在の喫緊のニーズと、将来的な需要のバランスをいかに図るかは、市が責任を持って考えなければならない点です。極端な例ですが、20年後に施設が過剰となり、利用者が極端に少なくなってしまうような事態も、市としては危惧しております。そのうえで、直近の実績を含めた再検証の結果、2027年4月に向けた現在の整備方針を提示させていただきました。将来の人口推計やこれまでの傾向を考慮すると、現時点での整備数は妥当であると考えております。今後は事業者の皆様と協力や工夫をしながら既存施設を有効活用し、一人でも多くの保護者の皆様に安心していただけるよう努めてまいります。

矢口委員：10年後、20年後に必要なかどうかは、その時の子ども・子育て会議で考えるものであり、今、私たちの目の前にいるのは、来年の4月に保育を必要とす

る人たちです。国に対する補助は、もう少し活用することができるのではないのでしょうか。私や保育園協会のような運営事業者の立場としては、今必要としている人に対して、20年後の話をすることはできません。そのため、今ここにいる市民の代表の方々に意見を求めたいと思います。

子育て推進課長：施設整備については、それぞれ立場の違いもあって、いろいろなご意見があると思っています。この会議の中で様々なご意見をいただきながら、市として受け止めてまいりたいと思います。

近藤委員：待機児童数が90人に増加したという数値のみを捉えがちですが、流入数や入所児童数も増加しているため、これらも考慮しなければ不公平な気がします。情報の打ち出し方については改善が必要だと思いますが、将来的なバランス調整の難しさを感じました。特にニーズが集中している0～2歳児への対応については、一時預かり事業の活用も含め、必ずしも幼稚園や保育園という施設に限定せず、時間単位や曜日単位の預かりなど、上手くサポート可能な受け皿があると良いと思いました。

村野委員：少し話が逸れるかもしれませんが、医師会の小児科部会からリクエストがありましたので共有させていただきます。保育園の待機児童数や学童保育クラブの入会申請状況について、前年比だけではトレンドが見えにくいとの指摘がありました。特に小児科医の間では、成り手の少なさや園医の高齢化などの問題があるため、できれば10年程度の中長期的な推移が欲しいとのことでした。

保育・幼稚園課長：資料8では5年分の比較をしている表もありますが、どのような形でデータをお示しすれば参考にさせていただけるかを考え、今後の資料の出し方を検討していきたいと思います。

鈴木会長：待機児童の問題は先ほど市長もお話しされていたので、今回の会議での意見もふまえ、今後につなげていただけたらと思います。町田市では車で子どもをピックアップして遠くの園に送迎する取組もありますが、車での移動時間が30分以上で良いのかなど、いろいろ考えながら施策をされていると思います。施設整備以外の支援をどれだけ広げられるかも重要です。また、将来的に高齢者が使える施設にするといった他自治体の事例のように、保育園の用途で使い続けるかどうかという点も含め、会議の意見を反映させていただけたらと思います。

関野委員：資料 7－2 の 1 ページ、就学前児童数①について、0 歳児の実績は、令和 7 年 4 月 1 日が 2, 2 2 1 人、令和 8 年 4 月 1 日が 2, 3 8 6 人となっており、これを合計すると 4, 6 0 0 人ぐらいになります。これらの子どもが令和 9 年の 4 月 1 日になると 1・2 歳児になると思いますが、令和 9 年 4 月 1 日の 1・2 歳児の見込みは 5, 1 0 0 人ぐらいになっており、実績から約 5 0 0 人増えています。この見込み値とした理由を教えてください。

子育て推進課長：令和 9 年についてはあくまでも見込み値で、第 3 期町田市子ども・子育て支援事業計画を策定した当初の数字を基にしており、令和 7 年及び令和 8 年の実績は反映しておりません。また、社会的増減などの状況も踏まえると、数字は一致しないものとなります。

関野委員：0～4 歳の転入超過数と保留児童数が同じような数となっており、関連性があるのかと思いました。施設整備のほかに、定員割れが生じている園の有効活用を目指していくなど、待機児童への対応ができる計画を盛り込むことも必要だと感じました。

保育・幼稚園課長：転入超過数と保留児童数の関係は分析できておりませんが、新規施設の開設などで定員数が増えている一方で、それを上回る形で申込者数が増えている状況のため、単純に転入超過数分だけ増えたわけではないと考えています。定員に余裕のある施設の活用については、送迎保育ステーションの利用など様々な視点で検討していきたいと思います。

子育て推進課長：送迎保育ステーション利用については、既存の確保量の中の余剰として空いている施設に子どもを送迎して保育をする形になり、計画の確保量には反映させにくい状態ですが、施策の一つとして着実に検討してまいります。

矢口委員：町田市は保育園に落選した場合のボーダーラインを公表していませんが、待機児童の多かった地区のボーダーラインの点数を聞くことはできますか。

保育・幼稚園課長：ボーダー点数を公表することによって、施設の人気のあり・なしなど市の意図とは異なる捉え方をされる可能性があるため、この場でお答えすることは難しく、慎重に扱わせていただいています。

矢口委員：今年の 9 月に、来年 4 月の新規募集の定員数などを保護者向けに発表しますが、それまでに既存の施設を活用する方法などを決めて発表しないと、保育を必要とする多くの人たちが、町田で仕事に復帰することが難しいと思い、不

安になってしまうのではないのでしょうか。昨年度の会議でも意見させていただきましたが、そういった対応は早く進めていただきたいと思います。

子育て推進課長：施設整備をしない場合の具体的な確保策について、本来であればあわせてお示しするのが最善であること、また、来年度の入所に向けた案内に確保数の拡充内容をお示しすることも、市のスケジュールにおけるターゲットの一つとして承知しております。待機児童数の数値が確定し、今後何ができるか、どの程度確保できるか等を現在検討している段階です。この場でお伝えすることは難しい状況ですが、今しばらくお待ちいただきたいと思います

鈴木会長：7月の第2回子ども・子育て会議までに、何かお知らせをいただけると良いと思います。それでは、第3期町田市子ども・子育て支援事業計画の変更案ですが、方向性としてはご承認いただけますでしょうか。

一同：（異議なし）

鈴木会長：ありがとうございます。また、細かい修正等については、会長及び事務局に一任いただくということでよろしいでしょうか。

一同：（異議なし）

鈴木会長：ありがとうございます。

## 10 報告

鈴木会長：続きまして、報告に移ります。先ほど報告いただいた案件のほかに、4件の報告があります。質疑は報告が終わった後に時間をとりますので、よろしくお願いいたします。

### 〔報告事項（2）～（5）の説明〕

鈴木会長：下尾委員から質問を預かっています。

資料9の4ページ、各エリアに1施設ということは理解していますが、エリアの端に1施設のみ設置されているところがあり、近くに2つ施設がある人もいれば、周辺に全く施設がない人もいるのではないのでしょうか、という内容ですが、いかがでしょうか。

保育・幼稚園課長：エリア設定は基本となる市内の5地域を、さらに面積や人口に応じて細分化して11エリアとしています。各エリアの中心に施設があるのが理想ですが、そのエリア内で公募し、最も条件のよい業者を選定した結果、この

ような配置になっております。均等ではなくとも、各エリアの方が身近で利用できる配置になっていると認識しています。

矢口委員：次回の第2回子ども・子育て会議で、今年度の4～5月の未就園児預かり推進事業の実施状況について地区別で報告していただくことはできますか。

保育・幼稚園課長：4～5月の2か月分の集計を提示させていただくことは可能かと思います。

菅野委員：資料9の2ページ、アンケートでどのような変化があったのか聞いた部分で「歳の近い友達が増えた」が突出して多いですが、これはお子さん自身の変化ではないので、変化の聞き方を「年齢の近い友達とたくさん遊べるようになった」などに変えられると良いと思います。

保育・幼稚園課長：今後のアンケートの見直しにつなげていきたいと思います。すぐに反映させることは難しいと思いますが、適宜、利用者の声を収集していきたいと思います。

## 1 1 その他

鈴木会長：他に何かございますか。よろしければ、進行を事務局にお返しいたします。

## 1 2 閉会

子ども総務課企画総務係担当係長：委員の皆様、ありがとうございました。本日の内容につきまして、ボリュームが多い部分もありましたので、後日意見をいただく時間をとらせていただきます。2週間ほど期間をとらせていただきまして、追加でご意見がある方は、事務局の子ども総務課にメールなどでご意見をいただければと思います。

次回の会議は7月9日（木）となります。

以上をもちまして、2026年度 第1回 町田市子ども・子育て会議を閉会いたします。ありがとうございました。